



# 情報オリンピック

## No.14

### に参加しよう!



## 第12回 日本情報オリンピック表彰式

共 催：独立行政法人科学技術振興機構  
後 援：文部科学省・情報処理学会

協 賛：株式会社NTTデータ  
富士通株式会社

### 第 12 回日本情報オリンピック(JOI2012-2013)表彰式

2013年3月24日 NTTデータ駒場研修センターイベントホール(東京都目黒区)で挙



## JOI 2012-2013 ブロック別成績優秀者

ブロック制は、全国を6つの地域に分け、各地域の成績優秀者(金銀銅賞以外の者)を表彰する制度です。

ブロック	氏 名	学 校 名	学年	学校所在地
北海道・東北	五十嵐 皐暉	福島県立会津高等学校	高1	福島県
関東	隈部 壮	筑波大学附属駒場高等学校	高1	東京都
中部	藤田 祥太	静岡県立浜松工業高等学校	高2	静岡県
近畿	小倉 拳	灘高等学校	高1	兵庫県
中国・四国	佐藤 聡太	香川県立高松高等学校	高1	香川県
九州・沖縄	當眞 ジェイソン 翔	沖縄工業高等専門学校	高専2	沖縄県

学年は2013年3月時点



## 第12回日本情報オリンピック（JOI2012-2013） 成績優秀者20名を表彰

第12回日本情報オリンピック（JOI 2012-2013）表彰式は、3月24日午後2時半よりNTTデータ 駒場研修センターのイベントホールにおいて、御来賓、受賞者の保護者、情報オリンピック日本委員会関係者、JOIのOBなど多数の方々の御臨席のもと挙行されました。

はじめに、情報オリンピック日本委員会理事長の笈捷彦・早稲田大学教授から挨拶とJOI 2012-2013の経過報告があり、続いて成績発表が行われました。

ブロック別成績優秀者6名の表彰から始まり、優秀賞17名、銅賞、銀賞、金賞各1名の順に呼ばれ、表彰状が授与されました。ブロック別の成績優秀者と金/銀/銅賞の受賞者には、元IOI日本代表選手からメダルが授与されました。また、金賞受賞者の劉鴻志君には、当委員会理事でもある株式会社NTTデータ技術開発本部本部長の木谷強様から優勝カップが授与されました。さらに、副賞として富士通株式会社 総務人事本部総務部長 碓山洋一様から、ノートPC「LIFE BOOK AH78/JA」が金賞の劉君に、銀賞の岩井君にはウルトラブック「LIFEBOOK UH75/K」が、銅賞の熊崎君にはウインドウズタブレット「ARROWS Tab Wi-Fi QH55/J」が贈られました。



笈理事長



ブロック賞表彰



NTTデータ 木谷様と金賞の劉君



←  
元IOI日本代表選手から  
ブロック賞  
受賞者へ  
メダルの授与



# JOI 2012-2013 成績優秀者

本選参加者 60 名中の成績上位 20 名は、春季トレーニング合宿に招待され、IOI2013 オーストラリア大会の日本代表選手選抜競技に臨みました。

	氏名	学校名	学年	学校所在地
<b>金賞</b>	劉 鴻志	栄光学園高等学校	高2	神奈川県
<b>銀賞</b>	岩井 龍之介	灘中学校	中3	兵庫県
<b>銅賞</b>	熊崎 剛生	筑波大学附属駒場高等学校	高2	東京都
<b>優秀賞</b>	石塚 凌	早稲田高等学校	高2	東京都
	井上 卓哉	開成中学校	中2	東京都
	大森 亮	灘高等学校	高2	兵庫県
	小倉 拳	灘高等学校	高1	兵庫県
	唐澤 弘明	明石工業高等専門学校	高専2	兵庫県
	隈部 壮	筑波大学附属駒場高等学校	高1	東京都
	佐藤 聡太	香川県立高松高等学校	高1	香川県
	高谷 悠太	開成中学校	中1	東京都
	帖佐 克己	大阪府立大学工業高等専門学校	高専2	大阪府
	當眞 ジェyson翔	沖縄工業高等専門学校	高専2	沖縄県
	藤田 祥太	静岡県立浜松工業高等学校	高2	静岡県
	藤本 裕樹	早稲田高等学校	高2	東京都
	増田 隆宏	筑波大学附属駒場中学校	中2	東京都
	松下 祐介	灘高等学校	高1	兵庫県
	三谷 庸	灘高等学校	高2	兵庫県
	矢倉 大夢	灘高等学校	高1	兵庫県
山下 琢巳	静岡県立浜松工業高等学校	高2	静岡県	

(以上 20 名。同賞内での並びは氏名の五十音順。学年は 2013 年 2 月時点)



## 第12回日本情報オリンピック(JOI2012-2013) 表彰式



富士通㈱  
総務人事本部総務部長  
碓山洋一様

金銀銅賞に  
授与されたPC→



ブロック賞受賞者 左から  
五十嵐卓暉くん、隈部壮くん、藤田祥太くん、小倉拳くん、佐藤聡太くん、当真ジェイソン翔くん



## 御来賓 御祝辞(文部科学省)

文部科学省 科学技術・学術政策局 基盤政策課 課長補佐 大塚章様よりご祝辞をいただきました。「第12回日本情報オリンピックの受賞者の皆さん誠におめでとうございます。皆さんが情報科学の分野に関心を寄せ、積極的に取り組まれた成果のあらわれであると思います。また、ご指導に当たられた先生方や関係者の方々にも心からお祝いを申し上げます。

情報科学分野は現在の産業の発展において、欠くことのできない学問分野になってきています。皆さんが引き続き情報科学に取り組み、将来我が国の科学技術を担う人材として一層活躍していかれることを期待しています。

先ほど覚理事長から紹介がありましたが、この後、この中から今年の7月にオーストラリアで開催される第25回国際情報オリンピックの日本代表選手が選ばれるということです。昨年の大会でも皆さんの先輩が活躍され優秀な成績をおさめられました。いろいろとプレッシャー等感じると思いますが、代表として選ばれた方々は伸び伸びとご自身の力を発揮して、またお互い励ましあって、そして切磋琢磨して大会に挑んでいただければと思います。また、こういう国際大会ですから、海外からいろんな方がいらっしゃいます。ほかの参加者と交流を深めていただいて、多くの友人を作っていただければと思います。最後になりますが、本事業を推進されている情報オリンピック日本委員会ははじめ、協賛いただいている企業各位のご尽力に深く敬意を表するとともに、本事業の今後の発展を祈念して私のお祝いの言葉といたします。本日はおめでとうございます。」



## 情報処理学会『若手奨励賞』授与

金・銀・銅賞受賞者には、情報処理学会から『若手奨励賞』が、(社)情報処理学会会長の古川一夫様から授与されました。若手奨励賞授与に引き続き、若手へ向けたメッセージを込めたご祝辞をいただきました。



情報処理学会 古川一夫会長 と 受賞者 左から 劉鴻志くん、岩井龍之介くん、熊崎 剛生くん

### 【古川様からのご祝辞】

情報処理学会の古川でございます。本日は日本情報オリンピックの予選本選を勝ち抜いて皆さん大変優秀な成績を収められたということで大変おめでとうございます。特にこの 3 名はその中でさらに素晴らしい成績ということで情報処理学会としても若手奨励賞を出させていただきました。

情報処理学会というのは約 2 万名の日本の中の情報関係の皆さんからなる組織です。日本の中では最も大きな情報関係の学会です。いろいろな活動を日々やっているわけでありまして、その中で寛先生が教育関係の委員会の委員長として大変活躍されているわけでありまして。私どもの学会はもちろん大学の先生が多いわけですが、学生の方々、企業の情報関係の方々メインでありまして、このあと少しお話をさせていただくことになっています。海外に比べて、もっとも若い人が頑張らなくては駄目だと思ひまして我々の時代とは違うと思ひますが、頑張れと言いたいと思ひます。優秀な成績を挙げた皆さん以外にも、是非情報の底上げのためにも周りの人たちにも皆さんが働きかけてほしいと思ひます。今日は男性ばかりなのです。女性は参加できないのですか？これは(男性ばかりで)おかしいですね。来年は半分は無理でしょうが四分の一くらいは女性の方が(いいのでは)。私もメーカーで IT 関係の仕事をしてきました。女性の方が IT には適しているのではと思ひています。何か変えなければいけないのかなど。

本日はおめでとうございます。



## 表彰式記念講演会

表彰式につづいて午後 3 時 40 分から、一般社団法人情報処理学会 会長の古川一夫様に『君達に期待する！ 21 世紀の日本を IT 立国に！』と題して講演していただきました。

**【要旨】**現在、産学で「未踏」という事業をやっている。未踏事業とは今まで見たこともないアイデア・技術をもちイノベーション創出の可能性を秘めた「若い突出した IT 人材」を発掘・育成することである。25 歳未満の若年層の個人が対象で指導者として産学界のトップで活躍している人を充てている。

今、突出した人材の能力が発揮しやすい環境整備をしている。まだまだ日本のソフトウェア産業は基幹産業として育っていない。学会も若手育成に取り組んでいる。エネルギー業界はじめ各業界でも IT との融合を進めている。

IT 産業は中長期的にもっとも成長が望める産業。突出した IT 人材である君達の活躍で、イノベーションを創出し 21 世紀の日本を IT 立国にしてほしい。期待している。



情報処理学会 古川一夫 会長



## 第 25 回国際情報オリンピック

# オーストラリア大会日本代表選手発表会

表彰式記念講演会に続いて午後5時から、国際情報オリンピック日本代表選手の発表会を行いました。前日までに行われた4回の競技(1日5時間の競技にて4日間。競技1に4問、競技2~4に3問の課題が出題、計13問1300点満点)の成績上位4名が、7月6日から13日にかけてオーストラリアのブリスベンで開催される第25回国際情報オリンピック日本代表選手として選ばれました。

はじめに、科学委員会委員長の伊藤哲史・京都大学准教授から選考経過の報告があった後、司会者から代表に選ばれた4名の氏名が発表されました。つづいて、結団式に移り、まず、算理事長から伊藤団長に国旗が渡されました。次いで、株式会社NTTデータ技術開発本部本部長の木谷強様から選手たちにオーストラリア大会のチームユニフォームが贈呈され、また力強い激励のお言葉を頂戴しました。最後に、伊藤団長および選手一人ひとりがIOIでの活躍を誓う決意表明をしました。質疑応答では IOI 元選手よりコメントをいただき、閉会、その後フォトセッションと進み、笑顔が溢れる中、和やかに行われました。

代表選手 五十音順	熊崎 剛生	筑波大学附属駒場高等学校 2年
	隈部 壮	筑波大学附属駒場高等学校 1年
	三谷 庸	灘高等学校 2年
	劉 鴻志	栄光学園高等学校 2年 IOI2012 イタリア大会 銀メダル



団 長	伊藤 哲史	京都大学大学院 准教授 IOI 1994, IOI 1995 選手
副団長	谷 聖一	情報オリンピック日本委員会専務理事 日本大学 教授
	原 将己	東京大学教養学部理科 I 類 1年 IOI 2010, IOI 2011 選手
随員 五十音順	保坂 和宏	東京大学理学部数学科 3年 IOI 2008, IOI 2009 選手
	山下 洋史	東京大学教養学部理科 I 類 2年 IOI 2010 選手

所属および学年は 2013 年 3 月 24 日時点



NTTデータ技術開発本部本部長の木谷強様から激励のお言葉を頂戴しました。



熊崎 剛生くん



隈部 壮くん



三谷 庸くん



劉 鴻志くん



## 第12回 JOI 予選、本選

第12回日本情報オリンピックの予選は、2012年12月16日(日)にウェブ上オンラインで実施されました(競技時間は午後1時から4時までの3時間)。本選は、2013年2月9日(土)、10日(日)国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)に予選を通過した60名を集めて行われました。競技は参加者全員が同じPCを使い、2月10日午前10時から午後2時までの4時間、5問の問題を解くためにプログラムを作って競いました。また、本選初日2月9日にはプラクティス(実機練習)と講演会および食事会が行われ、10日の本選競技終了後には問題解説会が行われました。本選の成績優秀者20名が春季トレーニング合宿(3/19~3/25)へ招待されました。



↑ プラクティス



↑ 講演会 平井 康雅 氏(株式会社NTTデータ 基盤システム事業本部 セキュリティビジネス推進室セキュリティ技術担当)



食事会↓



本選競技



## 春季トレーニング合宿 (IOI2013日本代表選手選考会)

2013年3月19日から25日までの一週間、IOIオーストラリア大会日本代表選手候補として本選で選ばれた20名は、NTTデータ駒場研修センター(東京都目黒区)と国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)において春季トレーニング合宿に参加し、連日、午前中から午後にかけての競技、午後は講義、夜は問題解説というハードなスケジュールをこなし、24日の日本代表選手発表会に臨みました。



競技



講義



合宿参加者

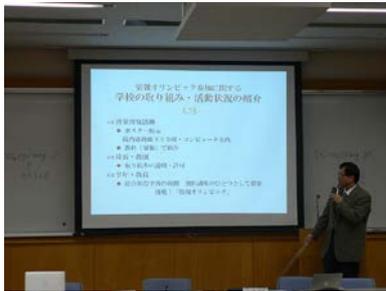


## 第12回 JOI 本選併催教員研修会

2月10日には、本選の競技と並行して、参加生徒・学生の在学校の先生方と研修会が行われ、埼玉県立大宮高等学校の齋藤 実先生、鈴鹿工業高等専門学校の田添 丈博先生にはそれぞれの学校における情報オリンピックへの取り組みについて紹介いただきました。



教員研修会の様子



埼玉県立大宮高等学校  
齋藤 実 先生



鈴鹿工業高等専門学校  
田添 丈博 先生



## 『レギオ』地域密着型学習支援講習会

地方の大学などと共催で、その地域の生徒・学生を対象に、情報オリンピックの出題形式に慣れさせ、競技力向上を目指すトレーニング「レギオ(Regional training Center)」講習会を前年より3箇所増やし7箇所で開催しました。レギオ講習会とは、情報オリンピックの予選参加を目指す生徒・学生に対して、プログラミングとアルゴリズムの基礎的なトレーニングを行う講習会です。実践的なトレーニングを通じて、プログラミングやアルゴリズムの効果的な独習方法を身につけてもらうのが目的です。



専修大学 8月3日、28日



茨城県教育委員会・水戸工業高校 8月7日、19日



神戸大学 8月17日、24日



東洋大学 10月7日、14日



中京大学 11月3日、4日



広島市立大学 11月4日、11日



愛媛大学 11月11日、18日



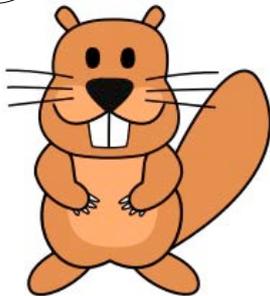
## ジュニア向け活動 富士通キッズイベント2012

数理情報科学教育の普及・啓発活動の一環として、ジュニア部門では、毎年夏に、富士通株式会社との共催で「富士通キッズイベント」を開催しています。

「富士通キッズイベント 2012 夢をかたちにするしくみ」のイベントレポートは、  
<http://jp.fujitsu.com/about/kids/events/20120804/report.html>からご覧いただけます。



## ジュニア向け活動 ビーバーコンテスト2012



情報オリンピック日本委員会では、2010年より小中学生を中心としたジュニア向けのコンピュータ科学コンテストを開催することになりました。このコンテストは、**Bebras** (ビーバーコンテスト) という名称で欧州を中心に普及が進んでいるコンピュータ科学に関する子ども向けのコンテストです。**Bebras** は、リトアニア語で「ビーバー」のことです。

ビーバー『コンテスト』と称していますが、順位をつけて競い合うことを目的とはしていません。

児童・生徒が情報科学に関連した親しみやすい問題に取り組むことで、情報科学と情報活用に対して興味をいだくようになることを目的としています。

論理的思考力を問う問題も出題されますので、生徒の「考える力」「自分で考えるという意識」を向上させる一助になることが期待されます。

授業の中で実施することによって授業の補助教材のようにお使いいただくことも可能ですし、授業とは別に(例えば、放課後に部・クラブ単位で)参加していただくことも可能です。

ビーバーコンテスト 2012 では、24校の学校から約 3300名の児童・生徒・学生が参加しました。ビーバーコンテスト 2012 の概要は、<http://www.ioi-jp.org/junior/bebras2012.html>から、問題・解説は、<http://bebras.eplang.jp/> からご覧いただけます。



## 普及広報活動 CEATEC JAPAN 2012

2012年10月6日幕張メッセで行われた最先端IT・エレクトロニクス総合展 CEATEC JAPAN 2012にて富士通株式会社の特別企画「楽しみながらコンピュータのしくみを学ぼう！」に協力し、小学生、中学生、一般の方を対象に公開授業を行いました。

情報オリンピック日本委員会ジュニア部会の井戸坂幸男先生(松阪市立飯高東中学校)と中野由章先生(大阪電気通信大学)が先生役となり、参加した子どもたちは、データの誤り検出など、コンピュータの仕組みをわかりやすく学ぶことができました。





# 第13回日本情報オリンピック開催

第26回国際情報オリンピックは2014年(時期未定)に台湾で開催される予定です。日本代表選手候補を選抜する第13回日本情報オリンピックは以下のように開催されます。本選の成績上位者にはメダルと副賞が授与され、春季トレーニング合宿に招待されて日本代表選手選抜競技に参加できます。全国を6ブロックに分け、ブロックごとの成績優秀者も表彰します。成績優秀者には多数の大学における入試に関する特典や、夏季セミナーやアジア太平洋情報オリンピックへの優先参加などの特典があります(詳細は情報オリンピック日本委員会のウェブサイトをご覧ください)ので、奮って応募してください。

**応募資格** : 次の2つの条件を満たす者:

- ・2014年2月の日本情報オリンピック本選実施時点で高等学校、高等専門学校、中学校、中等教育学校、小学校、特別支援学校に在学し、学年が高等学校2年以下(中等教育学校や高等専門学校などの在校生は高等学校2年に相当する学年以下)であること。日本国内において学校以外の初等・中等教育機関に所属している人は個別に相談。
- ・生年月日が1994年4月2日以降であること。

**予選** : 2013年12月15日(日)にウェブ上オンラインで実施する予定です。ウェブから申し込みができ、学校のPC教室や自宅等において参加できます。

**本選** : 2014年2月8日(土)9日(日)に東京会場で実施します。参加者には交通費を補助いたします。予選を通過した人だけが参加できます。本選と併催して参加者交流セミナー等を開催します(自由参加)。

**競技内容** : 与えられた問題を解くために、プログラムを書き、実行して正しい答を出力させます。高校生レベルまでの数学とプログラミングの知識が必要です。予選ではプログラミング言語の種類を問いませんが、本選ではC/C++だけが使えます。

**参加料** : 無料です。

**申込方法** : 9月1日から情報オリンピック日本委員会のウェブサイト <http://www.ioi-jp.org/> で受付を開始する予定です。

**結果発表** : 予選・本選それぞれ終了後、本人に電子メールで通知します(予選成績をウェブサイトで閲覧できます)。

**特典** : 予選や本選の成績優秀者及び国際情報オリンピック日本代表に選ばれた人には以下の特典があります。

- ・東京工業大学推薦入試 第1類(理学部) の応募資格…国際情報オリンピック日本代表選手
  - ・早稲田大学理工系3学部 特別選抜入試「情報オリンピック入試」受験資格 …本選Aランク者
  - ・慶應義塾大学総合政策学部・環境情報学部・理工学部 AO入試1次選考免除 …本選Aランク者
  - ・東北大学理学部・工学部 特別入試(科学オリンピック) 出願資格 …本選Aランク者
  - ・立命館大学生命科学部 AO入試出願資格 …本選Aランク者
  - ・筑波大学情報学群(情報科学類・情報メディア創成学類) 国際科学オリンピック特別選抜出願資格 …本選Aランク者
  - ・関西大学総合情報学部AO入試【活動実績評価型】第1次試験合格 …本選Bランク者以上
  - ・国際基督教大学 AO入試Bカテゴリー出願資格 …本選Aランク者
  - ・会津大学推薦入試出願資格 …本選Aランク者
  - ・早稲田大学教育学部自己推薦入試応募資格
  - ・予選の成績優秀者への特典がある大学: 広島大学医学部 AO 入試応募資格、東洋大学総合情報学部自己推薦入試(資格取得者入試)応募資格、東京理科大学理学部第一部数理情報科学・応用物理学科・化学科・応用化学科SSE推薦入学出願資格、中央大学理工学部数学科&情報工学科自己推薦入試応募資格、東京女子大学現代教養学部 AO 入試2次選考小論文免除、東邦大学理学部各学科へのAO入試1次選考免除、専修大学ネットワーク情報学部
- 特典詳細は<http://www.ioi-jp.org/privilege.html> をご覧下さい。



## 協賛・後援・助成・提携

情報オリンピック日本委員会の活動は、独立行政法人科学技術振興機構、株式会社NTTデータ、富士通株式会社、社団法人東京倶楽部ほかのご支援をいただいています。

また、日本情報オリンピックは、文部科学省、情報処理学会、日本ソフトウェア科学会、電子情報通信学会、日本教育工学会、教育システム情報学会、独立行政法人国立高等専門学校機構、全国高等学校長協会、社団法人全国工業高等学校長協会からご後援をいただいております。スーパーコンピューティングコンテスト、全国高等学校パソコンコンクール、全国高等専門学校プログラミングコンテストと提携しています。



独立行政法人科学技術振興機構



株式会社NTTデータ



富士通株式会社



社団法人東京倶楽部

情報オリンピック  
に参加しよう!  
No.14 2013年5月20日発行

編集・発行

(NPO 法人)情報オリンピック日本委員会  
〒160-0022 東京都新宿区新宿 7-26-37-2D  
TEL: 03-5272-9794 (FAX: 03-5272-9791)

E-mail: [info@ioi-jp.org](mailto:info@ioi-jp.org)

<http://www.ioi-jp.org/>